



やさらぎの郷 さと



旅行先での石黒房枝様(中央)



令和五年新年の挨拶



園長 野見山 浩志

明 けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃より皆様には、やすらぎの郷の高齢者福祉事業に対しまして、変わらぬ温かいご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響、ロシアによるウクライナ軍事侵攻や円安の加速、そして、それらを要因とする物価の高騰や経済活動の低迷など、私たちの日常生活への不安と閉塞感が募る1年ではなかったかと存じます。そのような中、スポーツ界における日本人の活躍には、私を含め多くの皆様が大きな感動と勇気、元気をいただいたことと思います。

北京冬季オリンピックでは、日本は過去最高の18個のメダル（うち9個が金）を獲得、サッカーワールドカップでは、決勝トーナメントで日本チームはクロアチアに惜しくも敗れたものの、格上の強豪ドイツ・スペインを破る歴史的勝利を挙げました。フィギュアスケート世界グランプリファイナルでは、ロシア不在の中ではございましたが、男子、女子、さらにはペアで日本勢が優勝を果たし、三冠を達成するという快挙、野球界ではヤクルトスワローズの村上宗隆選手の史上最年少（22歳）での三冠王獲得と王貞治氏のホームランシーズン記録を58年ぶりに更新する56本を達成、大リーグでの大谷翔平選手の二刀流の活躍など、数々の輝かしい成績を収めています。今年も、世界柔道や世界水泳の開催など、スポーツイベントも盛りだくさんで、日本人選手の活躍ぶりが大いに期待されるところです。

新年を迎え、コロナ感染や世界情勢の混乱など気の緩められぬ日々がまだまだ続きますが、やすらぎの郷は職員一同、スポーツ界の日本人選手の活躍に負けないよう、利用者の皆様の安全・安心の確保を第一に全力を挙げて介護サービスという種目での様々なチャレンジを図ってまいりたいと思います。

今後とも、引き続き皆様のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
また、一日も早くコロナ感染が終息し、本年が皆様にとって輝かしい一年となりますことを心からご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

留学生の実習受け入れ

令和4年9月29日から令和4年12月15日までの計11日間、福岡介護福祉専門学校から、将来介護福祉士を目指す2名のネパールからの留学生の実習受け入れを行いました。初めての实習でしたので、コミュニケーションが中心でしたが、利用者や職員とスムーズにまた丁寧にコミュニケーションをとっている姿は私たちを新鮮な気持ちにしてくれました。実習生の方の今後の活躍を期待します。やすらぎの郷は今後も実習生の受け入れを積極的に行って参ります。



International Student



↑ネパール国旗



Respectively
それぞれの物語
Story
家族インタビュー

やすらぎの郷は人の想いを支えます



東棟のご利用者、石黒房枝様の長女さん次女さんにお話を伺いました

① 私たちの母親



母は台湾で生まれ女学校時代まで台湾に住んでいました。

台湾引き上げ後、代理教員として働いていました。父と出会い結婚後4人の子供に恵まれました。出産後は専業主婦として私たちを育ててくれました。

私たちの母は厳しい母親でしたね。

父の仕事上、転勤を繰り返していたため周りに友達もいなく、頼れる人もいなかった。父も昔の人だったため子育てにも積極的ではなく、母が一人で全てを担っていました。そうゆうこともあって子供達には厳しく躰をしたのだと思います。

ただ、母は厳しかったけれども『家族の為』に頑張ってくれていました。それは子供ながらに十分感じていました。なかなかほめてはくれない母だったけど、『とても優しく、愛情のある母』でした。

② アルツハイマー型認知症の診断を受けて

父の退職を機に熊本に家を購入し、夫婦で2人暮らしをしていたのですが、平成24年の正月に、電気ポットをガスコンロにかけて焦がしてしまうという事件が起きました。その光景をみて否定のしようがないと感じ、病院を受診しアルツハイマー型認知

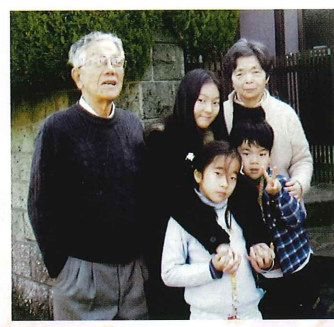


症と診断を受けました。同じものを何度も作るなどの症状や、足腰も弱った母をみてかなりショックを受けました。人一倍厳しかった母がそのようなってしまったことを、私たちも受け入れたくありませんでした…。

③ 熊本地震発生

平成27年に父が他界。その翌年、平成28年4月14日21時16分。

熊本を中心に大きな地震が発生しました。その夜母は家に1人で居ました。焦る気持ちを抑え、地震が落ち着いた隙をみて真夜中に母のもとに車で駆け付けました。家の中は、食器が落ち割れており物も散乱していました。その時、母はベッドの上でちょこんと座っていました。すぐさま衣服や薬をもって家を出ました。近くの老健施設へダメもとで光もない暗闇を、車のライトのみが頼りの道を走らせました。その光景は今でも鮮明に覚えています。



施設には電気も水道も機能していたので本当に安堵しました。

【震災を経験して感じた事についても話してくださいました。】

「転勤で周りに頼る人は少なかったけれど、被災しですぐに避難所として受け入れてくれた熊本の施設の方々、今入所しているやすらぎの郷の職員の方々、そして家族。今までやっていけたのはそういった周りの人たちとの絆だと思っています。本当に感謝しています。」



④やすらぎの郷に入所、そして新型コロナの感染拡大

震災で被災してしばらくして、やすらぎの郷に入所となりました。

入所してから、家族の目から見て母の変化が不安でした。月に何度か面会に行っていたが、日に日に言葉が出なくなってきている。母に対して申し訳ないような、何とも言えない悲しい気持ちになることもありました。

ところが、そんな不安はある出来事により感謝に変わりました。

ある時の面会で反応が悪かった母でしたが、スタッフの声掛けに笑顔で答えた姿をみて『話し方ひとつで母はしっかり答えるのだ。そんなスタッフに囲まれて生活している母は幸せで本当にありがたい』との気持ちに変わりました。

【コロナ禍のご時世についての気持ちをお聞きました。】

「ほんとうに心配で恨めしい気持ちです。ガラス越しでの面会に対しても、触れたい、昔みたいに家族で集まって外出したいとの強い気持ちがあります。」

インタビューを終えて

房枝様のベッドの周りには家族写真がたくさん貼られています。今回インタビューをさせていただき、本当に仲が良く家族の深い絆で結ばれているのどと感じました。

ガラス越しではなく、表紙の写真のように側でお話やお出かけができる日が一刻も早く来るように、コロナの終息を強く願います。貴重なお話をありがとうございました。『東棟介護職員 三光明紀』

第10回やすらぎの郷秋祭り



10月19日に「第10回やすらぎの郷秋祭り」を開催しました。残念ながら今年も新型コロナの影響により、ご利用者と職員での開催となりました。

トップバッターは西棟有志による氣志團。息の合った踊りにご利用者も思わず拍手。



2番手は医務課による「みんなで歌って体を動かそう!」。ご利用者が良く知っている曲に合わせて、一緒に体を動かしました。3番手は、昨年大好評だった「やすらぎ獅子舞」。昨年よりバージョンアップして、かみかみタイムでは、シャボン玉を使って幻想的な一場面を演出しました。4番手は、東棟有志による、皆さんにとって大変馴染み深い「炭坑節」。ひょっとこのお面などで仮装したスタッフと一緒に踊りの輪が広がり、昔の夏祭りを思い出しました。最後の出し物はケアハウス相談員による「みんなで歌おう」。「紅葉」「上を向いて歩こう」「ふるさと」などを一緒に合唱しました。



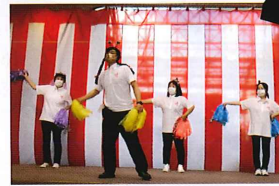
今回の秋祭りにはスペシャルゲストとして、日本赤十字社のイメージキャラクターであるハートラちゃんも参加し、ご利用者の皆様は「かわいい!!」と大変人気者でした。最後にみんなで記念撮影。秋晴れに負けない素敵な笑顔があふれたお祭りとなりました。



またこの日は行事食として、特養ご利用者様にはモンブランケーキ、ケアハウスご利用者様にはお寿司と天ぷら御前を召し上がっていただきました!!



今回は、感染への配慮から2部に分けて開催しましたが、来年こそは新型コロナが落ち着いて、ご家族や地域の方も参加して盛大に開催できることを願っております!!



デイサービス



Day Service

外出レクリエーション 「紅葉ドライブ」



新型コロナウイルス流行の影響により、以前のような外出レクリエーションがなかなかできませんでしたが、感染予防を徹底して、約3年ぶりに外出レクリエーションを開催しました。

11月の中旬は天候にも恵まれ、1週間毎日、車で15分ほどの宇美町にある四王寺県民の森に紅葉ドライブに行ってきました。

そこは山に囲まれた静かな場所で、山道に入ると紅葉した木がたくさんあり、到着する前から車内では「きれいな」と大盛り上がり。駐車場に着くと大きな真っ赤なもみじの大木があり、そこで記念撮影をしました。

撮影後、皆さんは綺麗な落ち葉が落ちていないか探してみたり、落ち葉を集めて宙に舞わせたりと、童心にかえって楽しんでおられました。また利用者様の中には、ご自身で運転され紅葉を見に行かれた思い出話を聞かせてくださる方もおられ、自然の中で素敵な時間を過ごすことができました。





やすらぎの郷 ケアハウスのご案内

ケアハウスとは身体機能の低下や高齢などの理由で居宅での生活が不安な高齢者に、食事や入浴、生活相談等のサービスを提供し、ご利用者の尊厳と自由で自立した豊かな生活を営めるよう支援を行います。また要介護認定(要支援認定)を持っている方は、ヘルパー訪問やデイサービスなどの介護保険サービスを利用することができます。

※ご利用までの流れや料金についてはホームページをご覧ください。



一人部屋
フローリングとたっぷりの採光で明るく風通しの良いつくりです。



二人部屋
ご夫婦などで利用できます。



食事
栄養士がバランスのとれたお食事を準備いたします。



入浴
大浴場にて、ゆっくりと入浴をお楽しみいただけます。



受付
いつでもお気軽にご相談いただけます。



ナースコール
居室やトイレ、浴室等にはナースコールを設置しています。



食堂
芝生の緑の前に楽しい食事ができます。



洗濯室
コインランドリーとしてご利用できます。



談話コーナー
ケアハウスの交流場所としてご利用できます。

【音楽リハビリ】

やすらぎの郷特養では、ご利用者の健康維持目的に、音楽・体操を行うレクリエーション(音楽リハビリ)を実施しています。それぞれの棟で週2回、10～15名のご利用者が参加しています。

「歌う事で昔を思い出す」という効果を期待して、皆様が良く知っている戦前から昭和40年代までの歌を選曲し、またテレビ画面には、その曲に合わせた体操を映し出して、その画面に合わせて、皆で歌いながら体操しています。さらに、その歌や歌手、映画俳優などにまつわる話をする事で、皆さんも「そうそう、その頃は・・・」などと会話を弾みます。

皆様の世代は、インターネットなどももちろんなくテレビも少ない時代で、情報源としては新聞、映画、そしてラジオが主流でした。そのラジオから流れていた曲と一緒に歌う事で当時の事を思い出され、とても良い反応がみられます。この音楽リハビリを導入して1年が経過しましたが、今後も皆様が健康で楽しく過ごせる時間を継続して提供したいと思っております。



日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

令和5年1月発行